

プロフィール

三浦大紀（みうらひろき）

1980年1月29日 島根県浜田市生まれ 45歳
国府保育園・松原小学校・浜田第一中学校
・浜田高校・早稲田大学政治経済学部

国会議員秘書、国際NGO職員を経て、浜田市へ
Uターン。

NPO法人てごねっと石見のスタッフとして、商店会活性化事業や創業
支援事業などに携わる。2014年に株式会社シマネプロモーションを
設立し、県内企業や自治体の事業・商品開発支援を行う。
社会教育士。

2017年浜田市議会議員初当選。現在2期目。
福祉環境委員会委員長、議会運営委員会委員、議会広報広聴委員会委員、
議会改革推進特別委員会委員

- 浜田市こどもの権利推進議員連盟 会長（2022年～）
- NPO法人てごねっと石見 理事（2015年～2024年）
- しまコトアカデミー メンター（2012年～2024年）

趣味：花、DJ
尊敬する人：橋本龍太郎
座右の銘：無自性

（2025年6月現在）



討議資料

MIURA
vision
2025



育ち、育てる、浜田へ 三浦ひろき

三浦ひろきの会

697-0032 島根県浜田市牛市町75

☎ 050-5216-0261 ✉ info@miurahiroki.net



◀ ブログやSNSで、三浦ひろきの考え方・活動を発信中。
ご意見・ご要望もぜひお聞かせください。

裏面も
ご覧ください



MIURA
vision
2025

育ち、育てる、浜田へ

人口減少が加速するなか、地域の活動や経済は縮小し、
税収や財源も確実に減り続けています。

自ら考え、行動し、信頼を育む「**自治の力**」を、一人ひとりが
発揮していくことが求められています。

現実を変えていく鍵は、「**人を育てること**」。

教育・産業・地域に関わるすべての人が力を重ね、この
人づくりを地域最大のプロジェクトとして動かしまし
しょう。

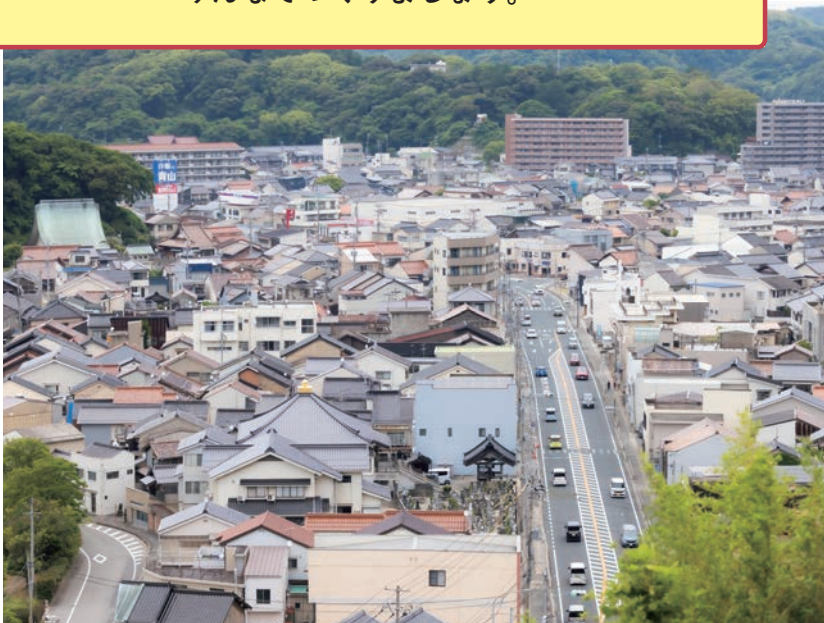
人が育ち、動けば、文化・暮らし・経済・自然環境の豊かさ
に、そして幸福度の向上につながります。

地域に根ざす資源を最大限に活かし、市民と行政、地域
と地域が互いの「**らしさ**」を尊重しながら前へ進む—
新市誕生から20年。「**ひとつの浜田**」として、このまち
をともに育てていきましょう。

このまちで働きたい 暮らしたい 関わりたい

はまだ「^{かんりゅう}還流のまち」プロジェクト

浜田で学び、育ち、意志を持ってとどまりたくなる。
経験を重ねたあとも還りたくなるまちを、
みんなでつくりましょう。



01

こどもにやさしい 環境をつくる



こどもたちの声が社会に届き、安心して育ち、学び、自分らしくいられる環境を整えます。地域全体で子育てを支える体制を整え、保育園や学校だけでなく放課後の居場所や多様な学びを選べる仕組みをつくり、一人ひとりの可能性が伸びる「育つ土壌」を耕していきます。

02



社会教育を まちづくりの 土台に

人は、出会いと学びを通じて育っていきます。図書館や美術館、まちづくりセンターなどを「学びと対話の拠点」として進化させ、世代や立場をこえて人が集い、学び合い、つながる機会を増やしていきます。まちを前向きに変えていく「自己成長の連鎖」を生み出していきます。

03



メリハリある 施設整備と 民間協働

地域に必要なサービスをしっかり残しながらも、使われていない施設や役割が重複している公共施設は見直し、「メリハリのある再編成」を進めます。同時に、民間の事業者や団体と積極的に連携し、施設運営やサービスの質を高め、財政的にも持続可能なまちを育てていきます。



04



産業と働き方をアップデート

浜田に「暮らし続けたい」「戻ってきたい」と思える人を増やすには、受け入れ体制が不可欠です。企業の採用力向上を支援するとともに、事業承継・起業促進・一次産業再生など多様な挑戦を後押しします。新たな働き方と産業とともに育て、地域の力に変えていきます。

価値観と政策 “7つの柱”

05

デジタルで 暮らしと経済を前進



行政手続きの簡素化、キャッシュレス決済やデマンド交通(予約型の公共交通)などを推進し、暮らしの利便性と地域経済の循環を同時に高めます。高齢者やデジタルサービスが苦手な方にも配慮した相談体制を整え、「誰ひとり取り残さない」やさしいデジタルを推進します。

06

コミュニティの力で 地域を再生



人が人を育てる。その原点は、日々のつながりにあります。観光・文化・スポーツ・地域のお祭りやボランティア活動など、誰かと関わり、誰かを支えることで、自分自身も育っていく—そんなコミュニティの力で、孤独や孤立を防ぎ、浜田に活力と希望を取り戻します。

07

戦略的な 生活基盤の維持



医療・交通・水道など、暮らしを支える基盤には「安心・安全」が欠かせません。戦略的な更新計画に基づき、日常的な点検や未然防止に取り組み、安定したサービスを提供します。災害への備えはもちろんのこと、近隣自治体などと、互いに機能を補完し合える関係をつくります。



関わることを、おもしろく。